

美しい自然を守りたい

2年2組 K.K.

ぼくは、今まで鳥のことと動物と植物の関係について調べてきました。磐梯のところには季節によっていろいろな鳥が来ます。カラスにもくちばしがとがっているのと丸まっているカラスがいます。

磐梯に来る鳥たちは、木の実をよく食べるそうです。季節によっていろんな鳥の食べるものがあるので「渡り」をすすむと思います。そのほかにも気温も大きく関係していると思います。暑い時に来る鳥、寒い時に来る鳥などがあります。全国には、埋め立てなどで沼地を埋め立てて鳥のすみかがなくなっています。磐梯には、入っていけないところがあるから一応安心だけど全国のどこかでは、人間のせいで、動物たちが苦しんでいると思いました。

僕は、昔に鳥の巣に友達と石を投げたりしていました。このようなことが「絶滅」してしまう小さな原因だと思います。僕は、鳥を調べていて思ったことは、人間は動物のことをもっとしっかり考えていかないといけないと思いました。鳥のおかげで人間がいいことになっていることもあると思います。なので、やっぱり大切にしていかなないといけないと思います。

鳥は、磐梯のような美しい森になるのにとっても役に立っていると思いました。木の実を食べた鳥が糞といっしょにまいてくれることがわかりました。森林にすむ鳥は木からエサを得ています。鳥が種子を運ぶことによって、次の世代の森林が作られると思います。このようなことがわかったことから鳥が絶滅してしまったら森が減ってしまい日本は砂漠化してしまいます。それで鳥と森の関係が大切なことがわかります。

僕が、調べていた中で一番驚いたのは、カラスは2種類いるということです。普段見ているカラスはそんなに近くで見られないのでとてもうれしかったです。

大きいキノコ



この大きなキノコは2日目のコースで見つけたものです。
このキノコを見た時はみんなあまりの大きさに驚きました。
このキノコが生えているところは土などがいいのかな？と思いました。

僕の2日目のコースは、「高原植物を調べよう」のテーマです。僕が歩いたコースはテーマどおり植物がたくさんありました。植物の近くには小さい虫がたくさんいました。僕がその道を歩いているだけでなんとなく植物と虫が生きていく中で大きなかわりがあるのか?と思いました。コースを歩いていて先生の話聞いていてわかったことは、植物は動物に食べられて繁殖したり風で飛ばされたり人の靴にくっつく植物もあります。そのほかに



水が流れているところにしか咲かない「水芭蕉」を見ました。「水芭蕉」を見ていてとてもきれいだったので家に持ち帰りたくなりました。その時にもし森が無くなってしまえば水がなくなってしまいます。そしたら「水芭蕉」もここに咲かなくなってしまうと思いました。

磐梯の植物などを持ち帰ることが何年も続いてしまうと植物がなくなってしまいます。人間のせいで木の実がなくなってしまうとその木の実を食べる鳥たちがエサを食べられなくなってしまう死んでしまうかもしれません。こうした1つの植物がなくなってしまうとたくさんの動物たちが困ってしまうことがわかりました。

～磐梯の鳥

磐梯には、12月から3月は長浜にコハクチョウやカモ類が来ます。4月にはわき水や田圃の水路でトウホクサンショウモが産卵しに来ます。6月は、サンコウチョウ・キビタキ・アオゲラの鳥がきてぼくたちが行った9月はヤマガラという鳥が来ます。この鳥たちは季節やその時期に食べられる木の実によって「渡り」をします。そこで「渡り」をするのはなぜか?について調べました。

まず、「渡り」とは生物がその生息地を移動することです。その移動が同期的に規則正しく主に季節的に陸上あるいは空中を移動する現象を「渡り」と言います。

渡りをする理由は食べ物を求めて豊富な場所に移動することや繁殖のためです。サケは産卵のためです。鳥によっては、太陽や星など天体を利用していることもあります。それで僕は、渡りをする中で1匹ぐらい1人になってしまわないのか?と思いました。

～磐梯の危険生物

磐梯には危険な生物がたくさんいます。その中で「ヤマカガシ」と「ニホンマムシ」について少し調べました。

まず、ヤマカガシというのはヘビです。体長は1メートル前後で結構大きくて体の特徴は首筋が黄色く体が大きく毒があります。ヤマカガシに上あごの奥歯でかまれると体質によって血が止まらないこともあるので、注意が必要ほど危険です。

ニホンマムシは体長が70センチもあるヘビです。体の特徴は、体に五円玉を並べたような模様がありしっぽは急に細くなっています。牙には毒はありませんが、かまれても死亡することはありません。ほかにもいろいろな危険生物がたくさんいます。

ニホンマムシの食性は動物食で小型哺乳類・両生類を食べます。ニホンマムシは平地から山地の森林などに住む。水場周辺に多く出現する。とくに山間部の水田や川の周辺で見かけることが多い。あとときどき田畑の周辺にもいる。ニホンマムシは夜行性だが冬眠直後の個体・妊娠中のメスは日本浴に活動することがある。ニホンマムシの形態は全長比して胴が太く体形は丸短い。目線がかなりはっきりしており20対前後の中央に黒い斑点のある銭型とも呼ばれる。胴体中央部の斜めに列になった背面の鱗の数は21列。尾は短く尾の先端が黄色になっているそしてニホンマムシの咬傷と処置は、咬傷による死亡率は高くないが年間約3000人が被害を受け死者は5～10人も出ている。これは、小型であるため毒量が少ないため効果が局所的に留まり身体全体を犯さないためである。然し毒性そのものでは、ハブよりもはるかに強く危険である。

～山の中で

僕は山の中では、危険な生物は見ませんでした。しかし森を歩いている途中で急に先生が手をたたき始めました。何かと思ったらだいたい100m ぐらい先にクマがいたと言っていました。くまは人間や何かが通ると地面にへばりつくように隠れると言っていました。先生もクマの姿はあまり見えなかったらしいけど草がガサガサと聞こえたそうです。先生は、たまに道が曲がっていて先が見えないときに出会い頭に会ってしまうこともあると言っていました。そうならないように先生は一人で歩くときには鈴をつけたり先が見えないときには手をたたいたりするそうです。その後、僕たちはクマを探しながら歩きましたが見つけられませんでした。帰る時にキツツキの仲間を近くで見ることができました。

～近くの湖で

☆イタチのフン

2日目の森を歩いた後に近くの湖にいきましました。そこにはたくさんの大きな石があちこちにありました。そのときに近くの石の上を見たら何か変なものが石の上にあるのをみつけました。それはなんと「イタチのフン」でした。イタチのフンは、大きい石の上によくあり、そこは自分の縄張りを示しているそうです。他にも色々な所にイタチのフンがあり人間



がいなところで活発に動いていることが想像できます。またすぐそばで小さな池がありました。きれいな花がたくさん咲いていていました。森を歩いている時も水がある場所に花が咲いていました。それは、「水芭蕉」でした。とてもきれいでした。しかしこの水がなくなってしまうと水芭蕉もなくなってしまうと思いました。なので、自然に水は、とても大切にしないといけないと思いました。



～感想

僕は、この林間学校でたくさんの自然について学ぶことができました。とくに植物の増え方や鳥の渡りについてたくさん知れてとてもうれしいです。植物は、風に飛ばされたり、動物に運ばれて繁殖する方法などたくさんあります。鳥の渡りは、季節、気候、食べ物、産卵などのためにします。僕は、植物などを見ることももうひとつ良かったことがあります。それはグループで森をいろいろ見ながら協力できたことです。最後に本当に動物や植物にかなり関心を持てるようになってよかったですと思います。

